



- **放流時期**
  - 放流時期は、餌料生物であるアミ類あるいは小型魚類（カクチシラスやハゼ等）の多い時期であることが望まれる。
  - 鹿児島県では4月上旬から6月中旬が最適である。
- **適正放流場所**
  - **放流場所は、潜砂が可能な砂質（細砂～中砂）の海域、餌料生物の豊富な10m以浅の浅海域、河川水の影響域、天然稚魚の多い場所などを基準にして選定する。**
- **放流サイズ**
  - 本県では、潜砂率試験から全長75mmを放流サイズとしている。各県50～100mmサイズでの放流が主体となっている。
- **適正放流方法**
  - **放流方法は、被食が主要な減耗原因である場合、集中放流の方が良い。捕食者が少ない海域では分散放流でも良い。**
  - **船上から放流場合、陸上からの場合においてもバケツによる放流が望ましい。高い位置からの放流やタモ網で海水から露出するような種苗に強いダメージを与えるような放流方法は良くない。**
- **主な被食生物**
  - マゴチ・スズキ・カサゴ・ホウボウ・ウシノシタ・ヒラツメガニ等のカニ類、マアナゴ・ヒラメ1～2歳魚、甲イカ・ウミヘビなどが考えられる。
- **放流後の分布・移動・行動性**
  - 一般的には、放流後は数日から2ヶ月程度成育場に留まる。
  - 大型個体ほど逸散が早い傾向がある。
  - 餌が豊富であれば、放流サイズ75mmの稚魚は水深10m以浅に広く分布する。
  - 閉鎖水域では逸散が遅く、開放水域では逸散が早い傾向がある。
  - 1～2歳魚くらいまでは、放流海域を中心に季節的深淺移動を繰り返す。
  - 2歳以上になるとより広範囲に移動していると考えられる。
- **産卵・成熟**

- ヒラメが再生産に関与する年齢は海域により多少異なるが、鹿児島県海域では成熟年齢は2歳（全長約400mm）である。産卵様式は多回産卵で、個体毎の産卵期間は約3ヶ月にわたる。産卵場は通常の生息場よりも沿岸より（水深50m以浅）に形成される。鹿児島県海域の産卵期は12～4月で、2月が盛期である。

表：ヒラメの発達段階別全長範囲

発達段階	全長範囲	備考
仔魚期	～ 15mm	浮遊生活期（約1ヶ月）
稚魚期	15mm ～ 100mm	底生生活期（成育場生活期）
幼魚期	100mm ～ 250mm	ほぼ成育場移出後の0歳魚に相当
未成魚期	250mm ～ 400mm	1～2歳
成魚期	400mm ～	生殖能力を備えた個体（2歳以上）